

死がいが消える 永明寺の正門

昭和五十五年七月五日号

原田にある永明寺の正門は、薬医門といわれる立派な門です。門の手前の通路は白壁の扉で、道路に立つて寺を見ると、まるで御殿か城の入口のようです。

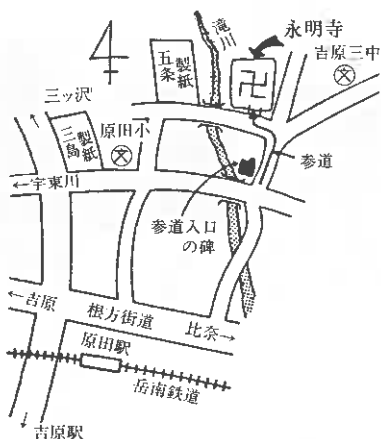
むかし、お葬式の行列が正面から入って、この正門をくぐろうとすると急にお棺が軽くなりました。かついでいた人々が、お棺をおろしてふたをあけてみて、びっくり。どこへいったのか死がいが見えません。死がいがなければ葬式はできないと、人々が家まで引き返えそうとして、門前の道までくると、またお棺が重くなったのです。開けてみると死がいが元にもどっています。和尚さんも不思議



永明寺の正門

なこともあるものだと思い、お経を読みながら門を入りました。今度は死がいは消えませんでした。

こんなことがその後、幾度も続きましたが、どういふ訳なのか、さっぱり和尚さんにも分かりませんでした。それから、お葬式の行列は正門を通らなくなりました。



本当は、こういうことじゃないかな

永明寺三十八世住職 加藤義孝さん

この門ができたのが二百七十年ぐらい前ですから、この話が本当かどうかは分かりませんが、しかし、私が思うにはこの門は正門のほかに三門、大名門ともよばれ、修業僧や身分の高い人が通る門だったんですよ。死んだ人のためには裏門があるので、たぶん、この話はこの正門から、お葬式の行列を入れなくなるためのものだったんじゃないかな。そして、むかし、この辺は雑木林で薄暗く、気味が悪かったからね。

また、この寺には「いぼとり不動尊」や「鑑ケ洲の主」などの伝説のほかに、すばらしい庭園もあるんですよ。